

いわさきちひろ

「とても素朴なんだけれどたいせつなもの、
それが絵本の中にはあるんです。」

＜同時開催＞ちひろ美術館コレクション 魔法の絵本＝絵本の魔法

2026年5月15日(金)～7月20日(月・祝)

ちひろ美術館・東京 展示室1・3・4

主催：ちひろ美術館

後援：絵本学会、(公社)全国学校図書館協議会、(一社)日本国際児童図書評議会、
日本児童図書出版協会、杉並区教育委員会、西東京市教育委員会、練馬区

平和で、豊かで、美しく、
可愛いものがほんとうに好きで、
そういうものをこわしていこうとする力に
限りない憤りを感じます。
今の世の中、いろんなものが
失われていってるでしょう。
とても素朴なんだけれどたいせつなもの、
それが絵本の中にはあるんです。

いわさきちひろ 1972年
私のひととき——「素朴だけれど大切なものを描きたい」

いわさきちひろ Chihiro Iwasaki
(1918-1974)

福井県武生(現・越前市)に生まれ、東京で育つ。
東京府立第六高等女学校卒。藤原行成流の書
を学び、絵は岡田三郎助、中谷泰、丸木俊に師事。
1950年松本善明と結婚。翌年、長男 猛誕生。
子どもを生涯のテーマとして描く。絵本に『お
ふるでちゃぶちゃぶ』(童心社)、『あめのひの
おるすばん』『ことりのくるひ』(至光社)、『戦
火のなかの子どもたち』(岩崎書店)など。



自宅にて 1973年4月
(54歳)



1 いわさきちひろ あごに手をおく少女 1970年

いわさきちひろは生前、エッセイや日記、手帳などに、数々のことばを遺しました。そこには、創作への信念や日々の暮らし、家族への思いなどがつづられています。

ちひろは戦争のなかで、一度は夢を見失いますが、戦後、再び描く情熱を取り戻し、子どもの本の画家として歩み始めました。1968年に絵本『あめのひのおるすばん』で絵と文の両方を手がけてからは、「絵とことばとが一体となった本をつくりたい」と語り、絵本の可能性を追求していきます。年代を追って、絵とことばを合わせて見ると、移り変わる時代のなかで模索しながら、自らの表現を見出していくちひろの姿が浮かび上がります。本展では、遺されたことばを手がかりに、ちひろの人物像や創作の軌跡をたどります。

展覧会の見どころ



平和への願い

戦場にいなくても戦火のなかで子どもたちがどうしているのか、どうなってしまうのかよくわかるのです。子どもは、そのあどけない瞳やくちびるやその心までが、世界じゅうみんなおなじだからなんです。

いわさきちひろ 1973年

絵本にそえて 『戦火のなかの子どもたち』(岩崎書店)1973年

ちひろが最後に完成させた絵本は、自らの戦争体験を重ねてベトナム戦争のなかで生きる子どもたちの姿を描いた『戦火のなかの子どもたち』でした。世界各地で戦争や紛争が続く今、あらためて、ちひろが願った平和への思いを紹介します。

ことばが語る、画家いわさきちひろ

そう、絵本は感動がたいせつなんです。感動するかしないかで価値がきまるんじゃないですか。こどもの絵本だからといって手を抜いたり、ゴマカシたりしては、感動は生まれません。作者が全力投球しなくては、だめだと思います。おとなが見て感動しない絵本が、どうして、こどもの感動を呼び起こすことができるのでしょうか。

いわさきちひろ 1973年 『産経新聞』1973年4月28日

2 いわさきちひろ カーテンにかくれる少女 『あめのひのおるすばん』(至光社)より 1968年



3 いわさきちひろ チューリップのある少女像 1973年



4 いわさきちひろ 焼け跡の姉弟 『戦火のなかの子どもたち』(岩崎書店)より 1973年



5 いわさきちひろ 「世界中の子どもみんなに平和としあわせを」 『ベトナムの子供を支援する会』反戦野展ポスター 1970年

ちひろ美術館では、今年、ちひろのことばを収録した目録の刊行を予定しています。本展では、そのなかに掲載されるものも含め、たくさんのちひろのことばを作品とともに紹介します。子どもを描くこと、アンデルセンの童話への共感、自らが目指す表現とは……。直筆の原稿や手帳なども展示し、「ことば」を軸に、画家いわさきちひろの姿に迫ります。

暮らしのよろこび

「絵描きとしての妻の生活を守る」というのが最初からの約束でした。

いわさきちひろ 1972年

私のひととき——「素朴だけど大切なものを描きたい」

多忙な生活を送るなか、ちひろの創作を支えたものは家族との暮らしでした。自伝的絵本『わたしのえほん』や、夫・善明と交わした結婚誓約書、ひとり息子・猛に宛てた手紙など、ちひろの人柄や暮らしが垣間見える作品とことばを展示します。



6 いわさきちひろ バラとふたりの子ども 『わたしのえほん』(新日本出版社)より 1969年

出展作品数 約70点

図版について 本リリースに掲載されている図版データを、プレス貸し出し用にご用意しています。

ご希望の方は、別紙「広報用作品画像データ貸出依頼書 兼 借用誓約書」をご覧ください。

※必ず絵のそばに作家名・作品タイトル・制作年を明記してください。※トリミングや文字が絵にかかるようなレイアウトはご遠慮ください。

※データ等チェックのため、校正段階で原稿をお送りください。※掲載紙/誌をご送付ください。

ちひろ美術館コレクション

魔法の絵本＝絵本の魔法

<同時開催>

いわさきちひろ

「とても素朴なんだけどたいせつなもの、それが絵本の中にはあるんです。」

2026年5月15日(金)～7月20日(月・祝)

ちひろ美術館・東京 展示室2

主催：ちひろ美術館



7 ドウシャン・カーライ(スロバキア)『魔法のなべと魔法のたまご』(ほるぶ出版)表紙 1989年

ようこそ魔法の世界へ

「魔法」と聞いて、何を思い浮かべますか？「開けゴマ……」不思議なじゅもん？ 恐ろしい魔女？ それとも、ユーモラスな魔物たちでしょうか。もしも、魔法が使えたら、あなたならどうしますか？さまざまな驚きをもたらす魔法の絵本、そして絵本ならではの魔法の世界にご案内します。「魔法」をテーマにちひろ美術館の豊かなコレクションをお楽しみください。

ちひろ美術館コレクションとは

世界初の絵本専門美術館として1977年に開館したちひろ美術館は、すぐれた子どもの本のイラストレーションを貴重な文化財のひとつとして位置づけ、世界の絵本画家の原画と資料の収集・保存・研究・公開に努めています。絵本のオリジナル・イラストレーションとしては、世界最大規模のコレクションです。

(35の国と地域228人のアーティストによる約28000点を所蔵(寄託作品を含む))

展覧会の見どころ

魔法つかいたち

魔法、それは人の力を超えた不思議なことを行う術。古くから世界中で語られてきた魔法にまつわる伝承がもとになり、子どもの本に登場する魔物のイメージがつけられました。子どもをつかまえるおそろしい魔女、ずるがしこい鬼、働き者のこびと、人とは異なるその姿にどきどき、はらはら、わくわくすることでしょう。



8 赤羽末吉(日本)『だいくとおにろく』(福音館書店)より 1962年



9 出久根育(日本)『マーシャと白い鳥』(偕成社)より 2005年



10 バーナデット・ワッツ(イギリス)『こびとのくつや』(西村書店)より 1986年頃

絵本の魔法

絵本の世界は変幻自在。1・2・3……のびたり、ちぢんだり、変身だってできます。ページをめくれば、不思議な時間が流れだし、魔法のように美しい光景が現れます。



13 長新太(日本)『まねっこねこちゃん』(文溪堂)より 1996年



12 谷内こうた(日本)『なつのあさ』(至光社)より 1969年



15 エリック・カール(アメリカ)『イソップの12の物語』習作 1991年
Eric Carle, Bat. Study for Twelve Tales from Aesop. Collection of The Chihiro Art Museum. ©1991 by Penguin Random House LLC.

魔法の道具

魔法にまつわる物語には不思議な道具が出てくることもあります。魔法の道具を手に入れたら、どんな魔法が使えるのでしょうか。



11 エロール・ル・カイン(イギリス)『アラジンと魔法のランプ』(ほるぶ出版)表紙(部分) 1981年



14 クヴェエタ・パツオウスカー(チェコ)数の物語 1990年

出展作品数 約45点

図版について

本リリースに掲載されている図版データを、プレス貸し出し用にご用意しています。ご希望の方は、別紙「広報用作品画像データ貸出依頼書 兼 借用誓約書」をご覧ください。
※必ず絵のそばに作家名・作品タイトル・制作年を明記してください。※トリミングや文字が絵にかかるようなレイアウトはご遠慮ください。
※データ等チェックのため、校正段階で原稿をお送りください。※掲載紙/誌をご送付ください。

展覧会関連イベント

学芸員によるスライドトーク

日時：5月17日(日) 14:00～15:00

参加費：無料(入館料別) / 定員：30名

申し込み：要事前予約(4/17より公式サイト、TELにて)

手話通訳つき 対話型ギャラリートーク

日時：6月6日(土) 14:00～15:00

参加費：無料(入館料別)

対象：手話を主要なコミュニケーションの手段とする方(ろう者、難聴者、中途失聴者など)のほか、どなたでも

定員：先着15名

申し込み：要事前予約(5/6より公式サイト、TELにて)

展覧会を手話通訳つきで対話しながら鑑賞します。

*本事業の鑑賞サポートは、「東京文化戦略2030」の取組「クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョー」の一環でアーツカウンシル東京が助成しています。

松本猛ギャラリートーク

日時：6月14日(日) 14:00～14:40 / 15:00～15:40

(2回とも同じ内容です)

参加費：無料(入館料別)

申し込み：自由参加

いわさきちひろのひとり息子・松本猛によるギャラリートーク。展示作品を見ながら、母・ちひろとの思い出や展示の見どころなどをお話しします。

障がいのある方のための特別鑑賞会

障がいのある方や来館に不安のある方が安心して鑑賞できるように休館日に開催する鑑賞会です。

日時：6月15日(月)

①しずかに楽しむ時間 10:30～12:00

②声を出してもOKな時間 13:30～15:00

参加費：無料(入館料別)

対象：障がいのある方とその介助者、通常の来館に不安を感じている方

定員：①② 各回5組(先着順)

申し込み：要事前予約(5/15より公式サイト、TELにて)

ギャラリートーク

日時：6/6をのぞく第1・3土曜日

14:00～14:30

参加費：無料(入館料別)

申し込み：不要

展覧会の見どころや展示作品について担当学芸員が解説します。



いわさきちひろ 見つめる子どもたち 1969年

会期中のイベント

わらべうたあそび

日時：6月6日(土) 11:00～11:40

講師：服部雅子

(西東京市もぐらの会代表、ほとさん文庫主宰)

参加費：500円(入館料別)

対象：0～2歳児と保護者

定員：10組20名

申し込み：要事前予約

(5/6より公式サイト、TELにて)

リズムにあわせて体を動かしたり、声を出して歌ったり。

物語への入り口となる「わらべうた」を親子で楽しみま

しょう。



絵本のじかん

日時：第2・4土曜日 11:00～11:30

参加費：無料(入館料別)

申し込み：不要

協力：NCBN(ねりま子どもと本ネットワーク)

季節や展示にあわせ、毎回テーマにそった絵本の読み聞かせを行います。あかちゃんから大人まで、どなたでもご参加いただけます。

次回展示予告

7月25日(土)～10月25日(日)

武田美穂展 絵本づくりはドキドキなのだ!

ちひろ 子どもは平和のシンボル

展覧会基本情報

| | |
|------|---|
| 展覧会名 | いわさきちひろ 「とても素朴なだけだけどたいせつなもの、それが絵本の中にはあるんです。」 ちひろ美術館コレクション 魔法の絵本=絵本の魔法 |
| 会期 | 2026年5月15日(金)～7月20日(月・祝) ※会期は予告なく変更になる場合があります。 ○開館時間=10:00～17:00 (入館は閉館の30分前まで) ○休館日=月曜日(祝休日は開館、翌平日休館) |
| 入館料 | 大人1200円/高校生・18歳以下無料/団体(有料入館者10名以上)、65歳以上、学生の方は900円/障害者手帳ご提示の方とその介添えの方(1名)は無料/年間パスポート3000円 |
| 交通 | ○電車の場合=西武新宿線 上井草駅下車徒歩7分 ○バスの場合=JR中央線荻窪駅より西武バス石神井公園駅行き(荻14) 上井草駅入口下車徒歩5分/西武池袋線石神井公園駅より西武バス荻窪駅行き(荻14) 上井草駅入口下車徒歩5分 |

※開館情報、会期、展示名、イベント内容などは予告なく変更する可能性があります。



公益財団法人いわさきちひろ記念事業団

ちひろ美術館・東京

chihiro.jp



お問い合わせ

広報担当 原島・北村・松方

〒177-0042 東京都練馬区下石神井 4-7-2

TEL.03-3995-0772 (業務用) FAX 03-3995-0680

TEL.03-3995-0612 (代表)

E-mail: publicity@chihoro.or.jp